

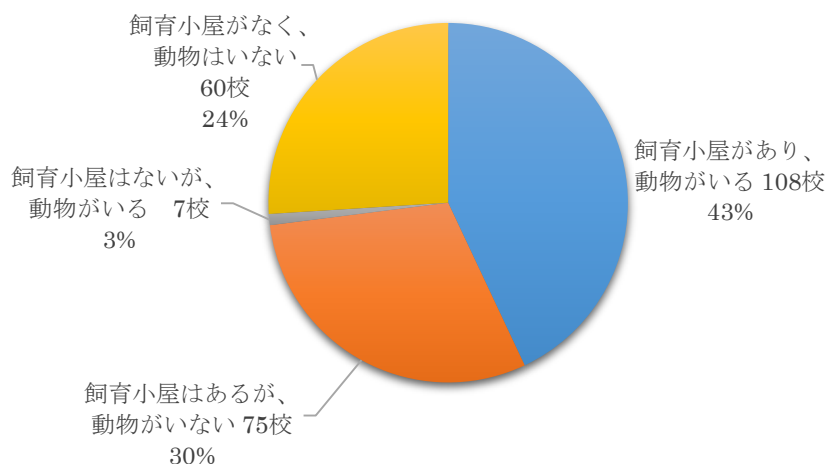
名古屋市獣医師会・学校飼育動物委員会が行った名古屋市立小学校の飼育に関する調査

2013 年末から 2014 年初めにかけて、名古屋市教育委員会のご協力のもと、(公社) 名古屋市獣医師会は学校飼育に関する調査を行いました。現在、名古屋市獣医師会が小学校において行う動物介在活動は 4 年を経過して、市政担当者、教育者、一般の方々、獣医師に少しずつご理解をいただくようになって参りました。未来を背負う子どもたちがやさしい心を持ち、大きく成長するために、獣医師会は今後も社会の一員として飼育に通しての学校支援を行っていきます。

今回のアンケート調査にご協力いただいた各小学校の校長先生、教頭先生をはじめ、多くの教員の方々に心より感謝いたします。

アンケートにより得られた結果は以下の通りです。対象校は 268 校であり、250 校から回答が得られました。(回答率 93%)

質問 I-① 飼育小屋がありますか？ 動物を飼っていますか？

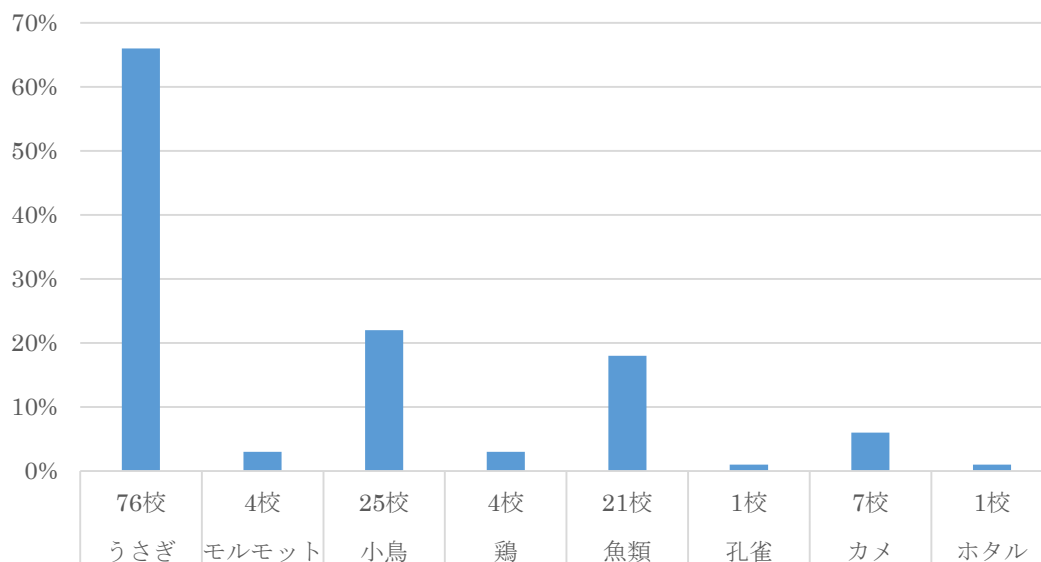


残念なことに、30%もの小学校で飼育小屋があるにもかかわらず、動物を飼育していませんでした。

明治時代から学校に飼育小屋があるのは、時の教育者・松田良蔵が学校で飼う動物を子どもの情操教育に役立てようと導入したところから始まっていると考えられ、それ以来日本の小学校ではその伝統が続いているようです。学校飼育の意義を多くの学校関係者が理解され、飼育環境を整えば、動物飼育は子どもにより効果をもたらすと考えられます。

次に動物を飼育をしていると回答された学校 115 校に聞きました。(回答率 100%)

質問 I -② 飼育動物の種類は？

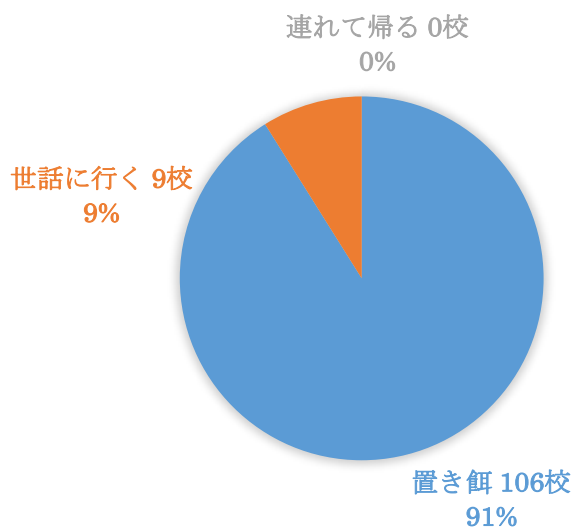


学校で飼われている動物のほとんどは、うさぎです。子ども達が世話をしやすく、かわいく、体温を感じることでできる動物としてうさぎは最適と思われます。

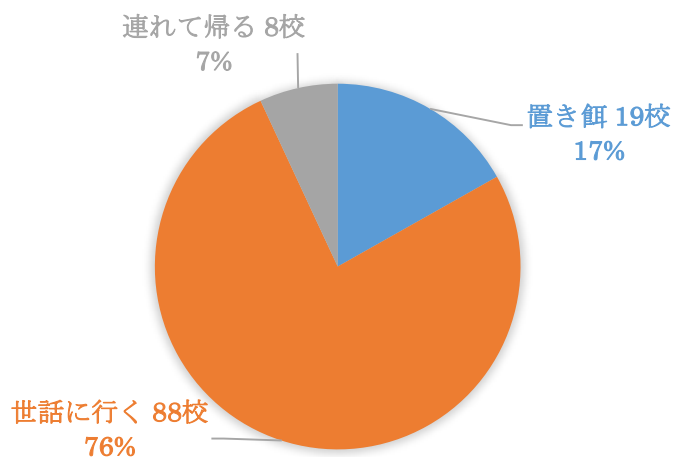
多くの学校において、飼育は子ども達の成長のに役立つと思われませんが、学校の先生方が飼育で悩まれている問題のひとつは休暇中の動物の世話です。

動物を飼っている 115 校の休日の世話の仕方を伺いました。

質問 I -③ 土日の動物の世話は？



質問 I -④ 長期休暇の動物の世話は？

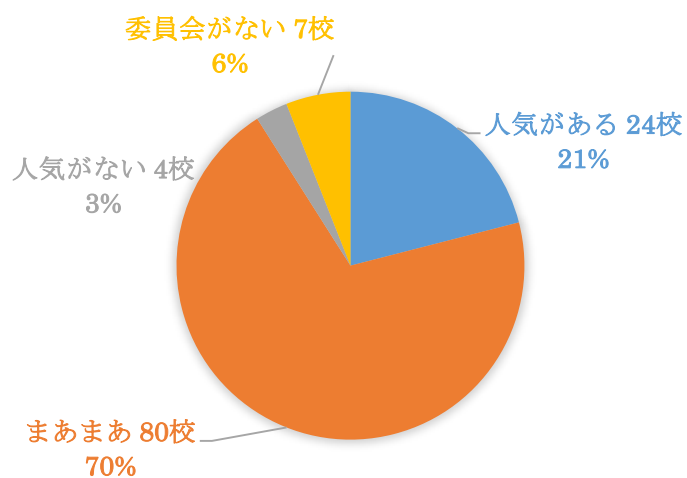


短い休みの世話は置き餌とし、長期休暇には世話に行くことが多いようです。

飼育がうまく行われている東京の小学校では、親子ボランティアで学校に世話に行ったり、動物を持ち帰り親子で動物の世話をするホームステイが行われています。こういう方法は保護者がふだん見ないこどもの様子を知る良い機会と思われれます。

飼育をしている多くの小学校では児童飼育委員会が動物の世話をしています。では、飼育委員会は子ども達に人気があるでしょうか？飼育を行っている 115 校に聞きました。(回答 100%)

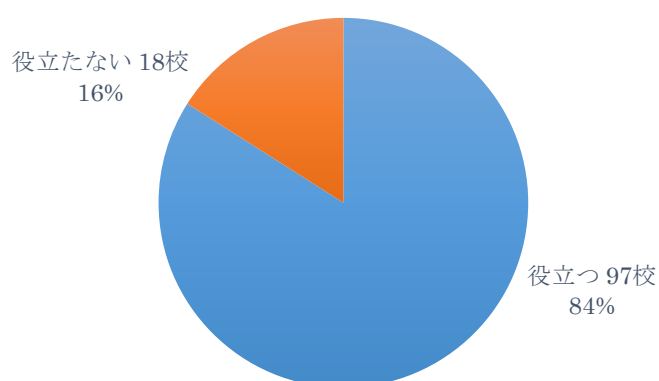
質問 I -⑤ 児童飼育委員会は人気がありますか？



児童飼育委員会の人気は「まあまあ」が多いようです。児童が飼育委員になりたくてもくじに外れてなれないという学校もあれば、誰もやりたがらず、くじに外れた児童が仕方なくやることもあるようです。飼育が楽しいものであるように、その方法を考えればもっと人気が出るはずです。

最後に飼育は子どものために何らかの役に立っているかと聞きました。

質問 I -⑥ 飼育は子どものために役立つか？

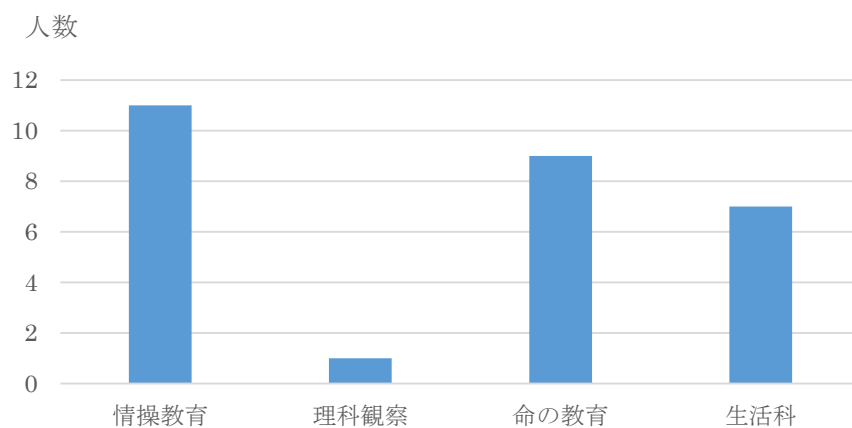


多くの学校では動物飼育は児童の成長に何らかの役に立っていると考えられていました。その成果については次に報告する学校の先生個人へのアンケートを見てください。

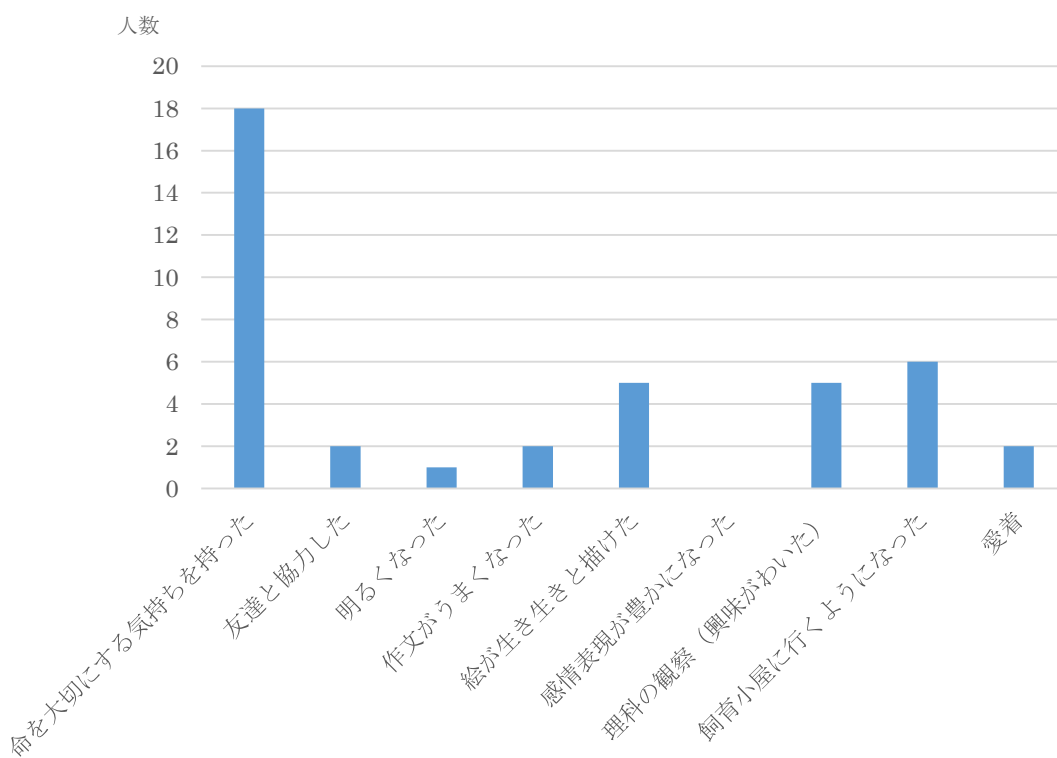
ここからは名古屋市獣医師会が行った学校支援活動についてのアンケート調査となります。

名古屋市獣医師会では小学校において、生活科や総合的な学習の中で、「動物ふれあい教室」を実施しています。この4年間に活動を行った小学校の先生方にその成果についてアンケート調査を行いました。結果は以下の通りです。対象となった先生方は31人で、その中26人から回答がありました。(回答率83%)

質問Ⅱ-① 「動物ふれあい教室」を計画する目的は？



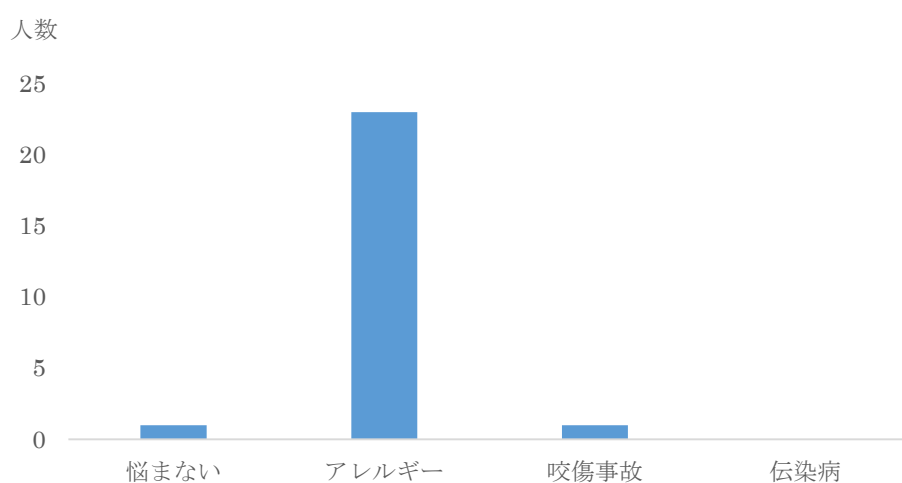
質問Ⅱ-② 「動物ふれあい教室」後の成果は？



生活科、総合的な学習において、「動物ふれあい教室」の依頼のあった学校の先生は何のために計画をしたか、という問いに対して、多くの先生が情操教育や「命」の教育のため

に行ったと言われています。そして、「動物ふれあい教室」を行った成果は「命」を大切に
する気持を持ったことが多くあげられていました。そして何よりも子どもが生き生きとす
る姿を先生方は喜んでおられました。

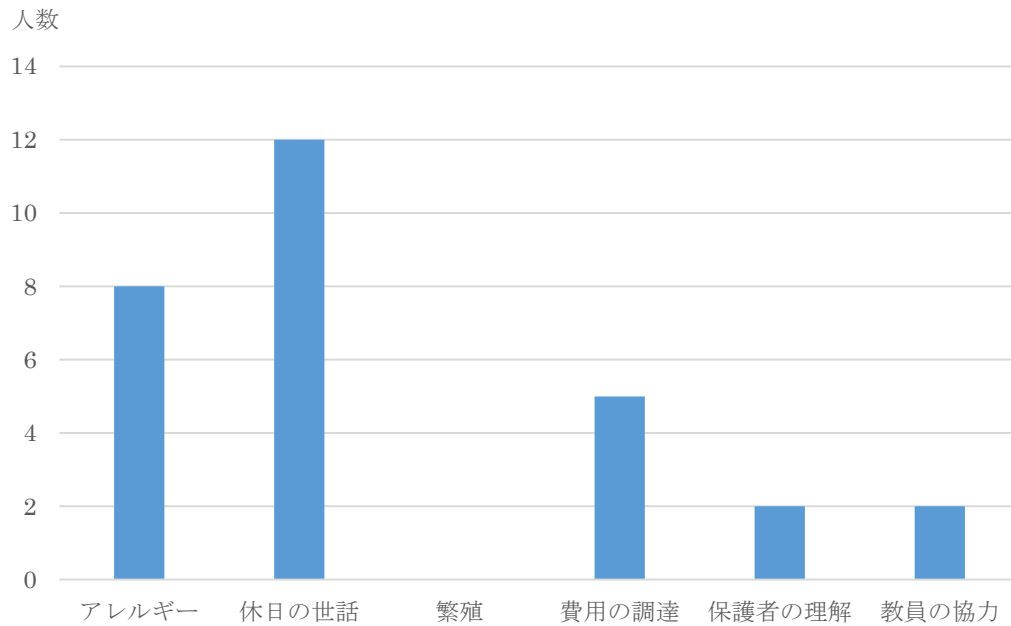
質問Ⅱ-③ 「動物ふれあい教室」を計画するときの悩みは？



しかし、「動物ふれあい教室」を計画しての悩みとして、アレルギーが大きく上げられま
した。児童の動物アレルギーは保護者の心配事です。また、教員自身にもアレルギー体質の
方がおられます。学校でのアレルギーの問題は十分に考慮しなければいけません、喘息の
ような重篤なアレルギーでなければ回避方法があります。子ども達によい体験をさせるに
はアレルギーの知識をしっかりと学び、保護者と理解し合い、実施することが大事です。困っ
た時には獣医師会にご相談ください。

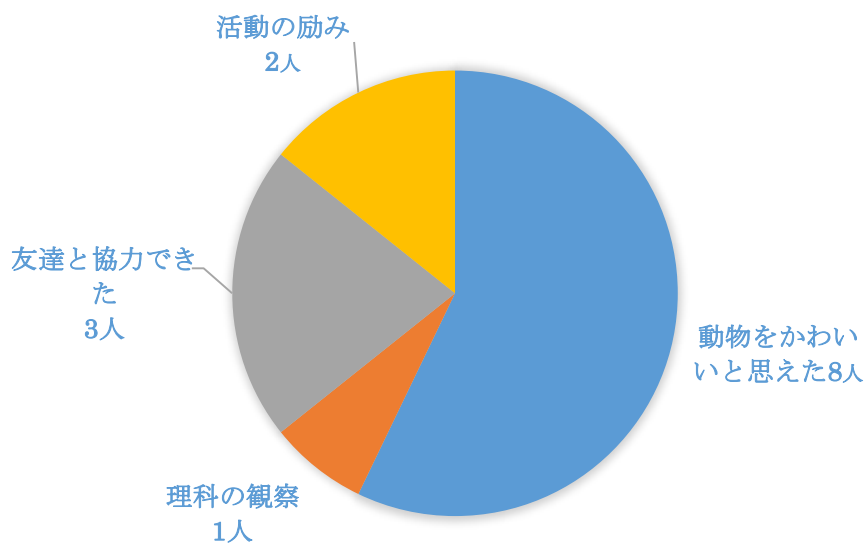
獣医師会では、飼育動物を子どもたちの成長に役立つよう、児童飼育委員会への飼育指導
も行っています。動物の生態を学び、動物とふれあう時間が楽しいものであるように 1 年
に 2 回ほど飼育指導をしています。その中で飼育担当の教員の方々に伺いました。回答数
は 14 人 (100%) でした。

質問Ⅲ-① 学校飼育の悩みは何ですか？



やはり、休日の世話とアレルギーが飼育の悩みとして多くました。その他には費用の調達が上げられ、保護者の理解と教員の協力も悩みとして上げられました。

質問Ⅲ-② 学校飼育の成果は何でしょうか？



飼育活動を行っての成果は「動物をかわいと思った」が多くを占めました。「友達と協

力できた」ことも成果となっています。心の教育をする上で、動物飼育は必要と考えられるのではないのでしょうか？

飼育活動は問題を抱えながらも子どもの成長を助けてくれます。いじめや不登校の問題に悩む今、子ども達が動物とふれあうことを通して、優しさや心の強さを育むことができるよう見守りたいと思います。

以上、現在の名古屋市立小学校における飼育に関するアンケート調査結果を報告しました。学校飼育が子ども達の心の教育に意義があるものであることを一人でも多くの教師の方々にご理解いただき、公社) 獣医師会・学校飼育動物委員会はこれからも学校の支援を続けたいと思っています。

(小学校の先生方からいただいたデータは獣医師会で管理させていただきます。)